

令和 8 年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる児童を育成する。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンス含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語の授業におけるICT機器の活用状況（50%以上の授業で実施した割合）について改善が見られた。

●「児童が学習者用デジタル教科書を活用した授業」

R6 29.5% → R7 43.2%

●「児童が一人一台端末・パソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動」

R6 19.2% → R7 35.5%

【県独自調査結果から】

①言語活動について、実施率は100%（R5）であるが、一部で形式的な練習に留まり、目的や場面、状況などの『伝える必然性』の設定が不十分である状況が見られる。

②小中連携の状況について、「小学校と連携している中学校」は96.5%（R5）であるが、「小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定を実施している中学校」が39.1%（R5）に留まっている。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①市町村指導事務担当者等会議や研修会において、ICT機器の効果的な活用について周知するとともに、好事例を共有する機会を設定したことから、活用状況が改善したと考えられる。

①教科書の題材をそのままなぞることに終始し、児童の実態や日常生活に即した目的意識や相手意識を持った言語活動へと教材を再構成する指導技術や、具体的な好事例の共有が十分ではないと考えられる。

②小中連携したカリキュラムや学習到達目標を設定する必要性は感じているものの、実際にどのような形で学びの接続を進めていけば効果的なのか、具体的な手法が確立されていない。また、小・中学校の教員間で互いの指導内容や目標を十分に共有できていない状況も見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①言語活動の充実

市町村指導事務担当者等会議や学校訪問等において、引き続きICT機器の効果的な活用について周知するとともに、好事例を共有する機会を設定することで、言語活動の充実を図るなど、各学校の授業改善を支援する。

①②中学校英語教員研修の内容の小学校教員への共有

小中連携のさらなる強化を図るため、中学校英語教員を対象とした研修会の内容を小学校教員に共有できる体制を整備する。校種を越えて同じ内容を学ぶことにより、指導観の共有と相互理解を図ることができるよう、市町村教育委員会と連携して取り組む。

また、小中高特の各校種の教員との交流を促進するために、高等学校の教員による公開授業において、小学校教員の参観・協議の機会を設ける。

【小中高連携】

②「英語教育における小中連携」の継続的な推進

令和6・7年度の「小中連携推進事業」の成果物を活用し、義務教育9年間を見通した連続性と系統性のある指導・評価方法の普及を図る。研究成果（公開授業の記録等）をHP等で広く公開することにより、義務教育9年間の学びの接続を推進するだけでなく、小中高の連携にもつなげる。

和歌山県教育委員会Webページ「英語教育改善プラン推進事業の取組」

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/501100/d00209715.html>)

②小6を対象に英検ESGを活用

英検ESGを活用し、客観的な指標で児童の英語学習の状況を把握することにより、児童に日頃の学習成果を実感させるとともに、教員が平素の指導と評価の取組を振り返る機会とする。また、分析資料を、小中連携したカリキュラムや学習到達目標の設定に活用するよう周知する。

一定の英語力を有する教員を確保するため、教員採用試験において加点制度を設けている。また、英語の技能検定の成績等による免除も実施し、英語力を有する教員の確保に努めている。

【新規採用に係る取組】

令和 8 年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる生徒を育成する。

○ CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7: 47.6% ⇒ R8: 56%)

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① 英語担当教師の英語力
(CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合) について、改善が見られた。
(R6: 33.6% ⇒ R7: 41.0%)

② ① R6全国学力・学習状況調査の生徒質問調査の結果において、(1、2年生の時の授業で)「(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていた」と思っている生徒の割合が上昇したが、全国と比較すると、未だ課題が見られる。
※肯定的に回答した生徒の割合
【県】R5 57.9% → R6 66.4%
【国】R5 63.8% → R6 68.8%

未だ改善が必要な点

② 生徒の英語力 (CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合) について、R7の目標 (54%) を達成できなかった。
(R6: 47.8% ⇒ R7: 47.6%)

2. 要因分析

① 学校訪問や会議等において、市町村教育委員会および県教育委員会が外部検定試験の活用を周知したことで、英語担当教員の受験機会が確保され、改善につながったと考えられる。

② ① 昨年度実施した「英語教育における発信力強化事業」および県内すべての中学校教員を対象とした「中学校英語教員研修」等より、言語活動を通じた授業づくりへの理解が深まり、授業における即興的なやり取りが増加したと考えられる。しかし、生徒の英語による発信力については未だ課題が見られることから、引き続き言語活動の一層の充実と指導の質の向上を図る必要がある。

② 言語活動を通じた指導については一定実践が進んでいるものの、指導方法については更なる改善が必要である。また、外部検定試験の受験率が低いことに加え、英検IBA (WS) の活用が限定的である状況も、課題の一因として考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

① 小中高特の各校種の教員との交流を促進するために、高等学校の教員による公開授業等において中学校英語担当教員が参観・協議を行うことを通して、教員の英語による指導力の向上の機会を確保する。

【小中高連携】

② ① ② 中学校英語教員を対象とした研修

小学校と中学校の円滑な接続を目指し、小中それぞれの段階で大切にすべき指導を明確にしたうえで、連続性と系統性をもった効果的な指導を実現し、言語活動を通じた指導の一層の充実につなげるために、「中学校英語教員研修」を実施する。

(内容) 大学教授による講義、協議等

【小中連携の推進】

② ① ② 全国学力・学習状況調査の結果を県で分析し、課題や解決策等を検討する。その結果を教員に周知することで、授業改善を図る。
→ 中学校英語教員研修において共有し、授業改善を図る。

② ① ② 英語による発信力の向上

言語活動を通じた指導についての効果的な技術を習得し、授業実践に生かすことにより、中学生の英語の発信力向上に必要な指導力の向上を図るため、昨年度に引き続き、県内 1 地域で「英語教育における発信力強化事業」を実施する。

(内容) ・外部機関と連携した研修

・研修にもとづいた授業実践、振り返りと外部機関によるフィードバックサイクルの確立
・研究成果の普及 等

※ 研究成果をHP等で公開することにより、小中高の連携を推進する。

和歌山県教育委員会Webページ「英語教育改善プラン推進事業の取組」

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/501100/d00209715.html>)

② ① ② 客観的な指標による生徒の英語力の把握及び授業改善

生徒の学習意欲の向上と学習定着状況の把握による授業改善を図るために、中学生対象の英検IBAを引き続き活用する。(WSはオンラインで実施する。) また、小 6 対象の英検ESGの結果分析を小中で共有する。

令和 8 年度 和歌山県 英語教育改善プラン

グローバル社会において活躍するために、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることのできる語学力・コミュニケーション能力・国際理解の精神などを身に付けた人材を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 48.5%、B1以上 20.8% ⇒ R8 : A2以上 58.0%、B1以上 28.0%)

目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力
(CEFR A2レベル相当以上
R6:48.2%
⇒R7:48.5%)
- ②教員の英語力
(CEFR B2レベル相当以上
R6:78.5 %
⇒R7:85.4%)

- ①英語担当教員の授業における英語使用状況
(R6:51.8%⇒R7:47.4%
参考 : R5:42.7%)
- ②授業における言語活動時間の状況
(参考 : R6:44.1%)
- ③ICTや生成AIの活用

2. 要因分析

- ①外部専門機関と連携し、英語教員の研修会において、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を高めるための指導方法を普及できた。
- ②特別受験制度の活用を促して積極的に外部試験を受験するよう指導した。また、大学教授等を招いて研修を行い、教員の英語力の大切さについて説明した。
- ①学校訪問等において、生徒が英語に触れる機会の充実を図るように指導することが十分ではなかった。
- ②校種間連携を図り、公開授業等を通して、英語担当教員が言語活動が中心となる授業づくりの重要性を再認識し、授業改善への意識を高められるような機会が十分ではなかった。
- ③ICTや生成AIの導入や活用についても研究段階であり、効果的な活用事例もみられるが、すべての学校に浸透はできていない状況にある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②異校種(小中高特)の教員と連携し、高等学校の教員による公開授業等を小・中学校の教員とともに参観・協議を行い、指導力の向上を促す。
- ①②和歌山県高等学校教育課程研究協議会等において、協議・情報交換等の一層の充実を図るとともに、和歌山県高等学校英語授業改善研究協議会において効果的な研修を計画する。また、わかやま海外留学応援プログラム(トビタテ！留学JAPAN)派遣生徒によるエヴァンジェリスト活動を通じて留学を経験していない生徒も国際交流に対する意識を高めさせる。
- 和歌山県高校生英語ディベート大会における参加生徒数およびわかやま海外留学応援プログラムにおける応募生徒数の増加を目標にし、各学校に呼びかける。
- ①②③和歌山県高等学校教育課程研究協議会および和歌山県高等学校英語授業改善研究協議会において、生徒の主体的・対話的な英語学習を促進するため、教員による英語での授業運営を促すとともに、生徒の英語による言語活動時間の割合及び使用状況が向上する内容を検討し、実施する。また、ICTや生成AIなどの先端技術を効果的に活用した授業改善を促し、生徒の言語活動時間を増やしていく。
- 先進的な授業を行っている教員の公開授業や授業実践発表等を参観することにより、授業改善を図る。

和歌山県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	48	54	48.2	56	48.5	58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	17.7	24	18.1	26	20.8	28		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	48.8	100	44.1	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)	100	38.2	100	35.9	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	38.3		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	59.6		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	75.8	77	78.5	79	85.4	86		88	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)	100	42.7	100	51.8	100	47.4	100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	53	51.3	54	47.8	54	47.6	56		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	95.6	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)	100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	35.1	50	33.6	50	41	50		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)	100	95.1	100		100		100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100		100		100		100	